

Getting Started

- ここではiOS上で動作するHVC-Cのサンプルプログラムを動作させる手順を説明します。

1. 用意するもの

- HVC-C
- Bluetooth 4.0 (Bluetooth Low Energy)搭載のiOS端末
- iOSプログラムをビルド可能な環境

※本サンプルプロジェクトはXcode 6.1 を使用

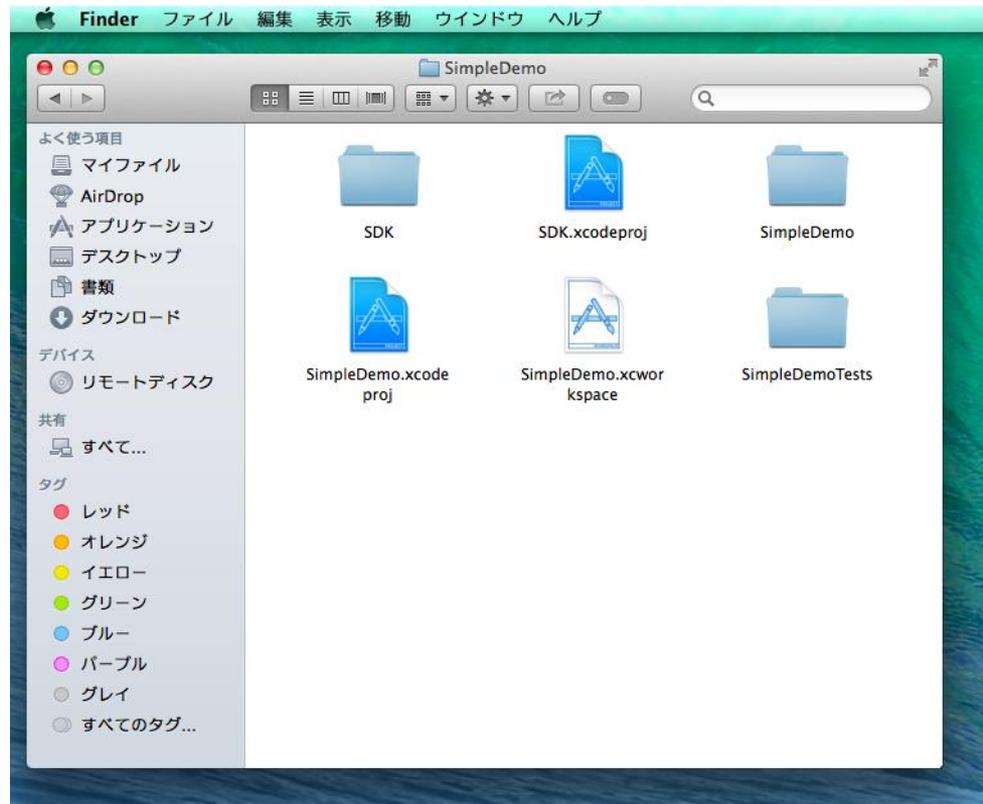
2. サンプルコードの取得

HVC-C用サンプルコードをPC上の任意のフォルダにコピーして下さい。

- サンプルコード一式
./sample_code
 - HVC-C用クラスライブラリ
./sample_code/SimpleDemo/SDK
 - サンプルデモアプリ
./sample_code/SimpleDemo/SimpleDemo

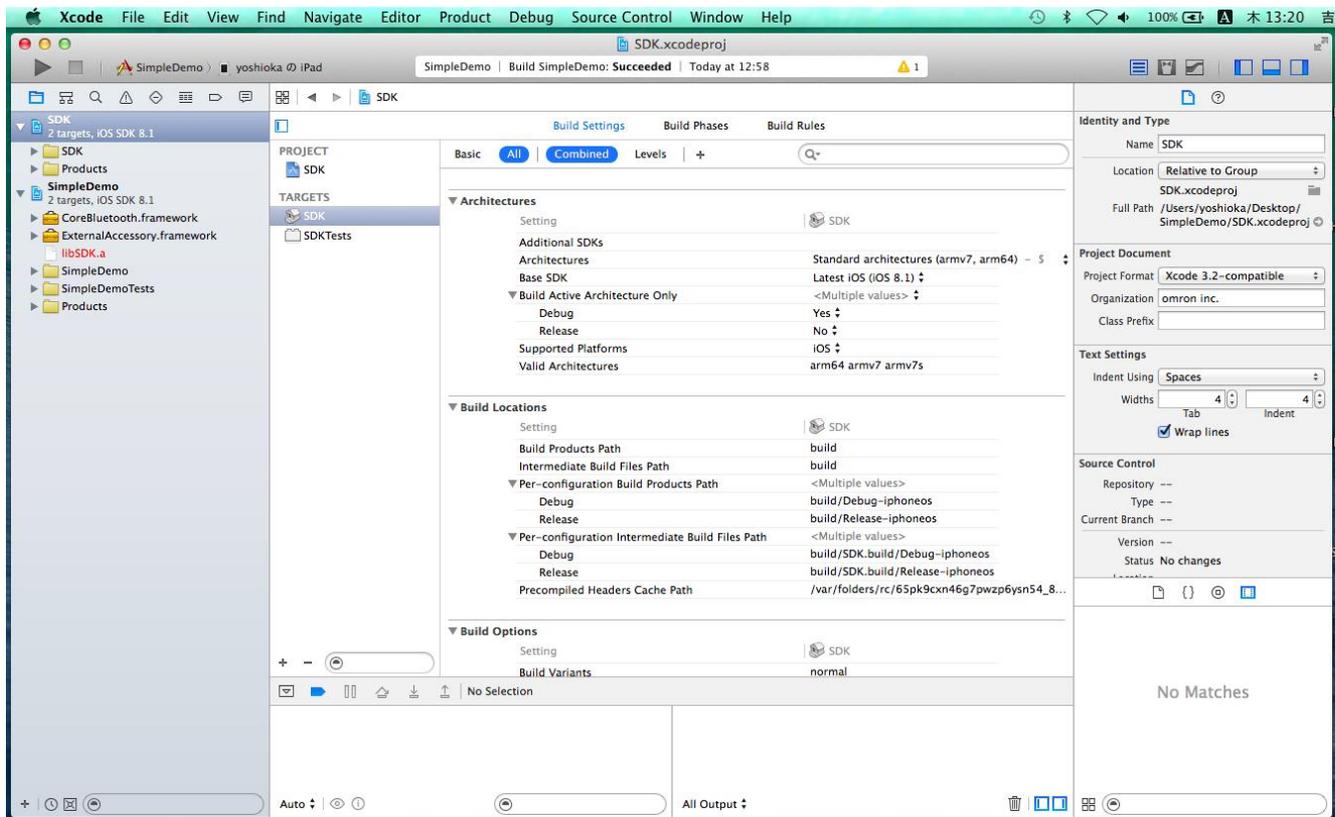
3. プロジェクトの作成

- サンプルコードのフォルダを開き、「SimpleDemo.xcworkspace」を選択します。



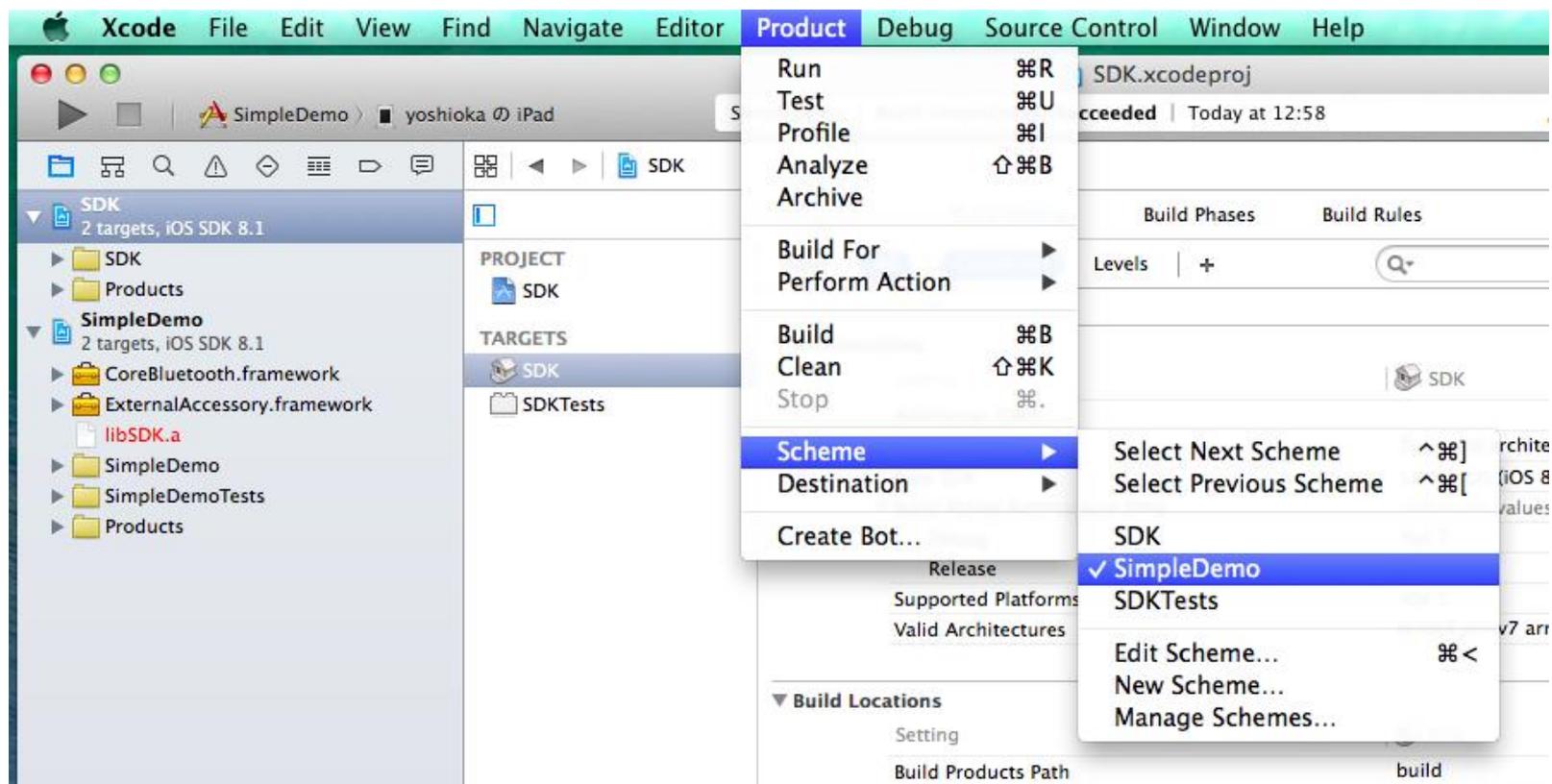
3-2. プロジェクトの選択

- Xcodeが起動し、サンプルプロジェクトが開くことを確認します。



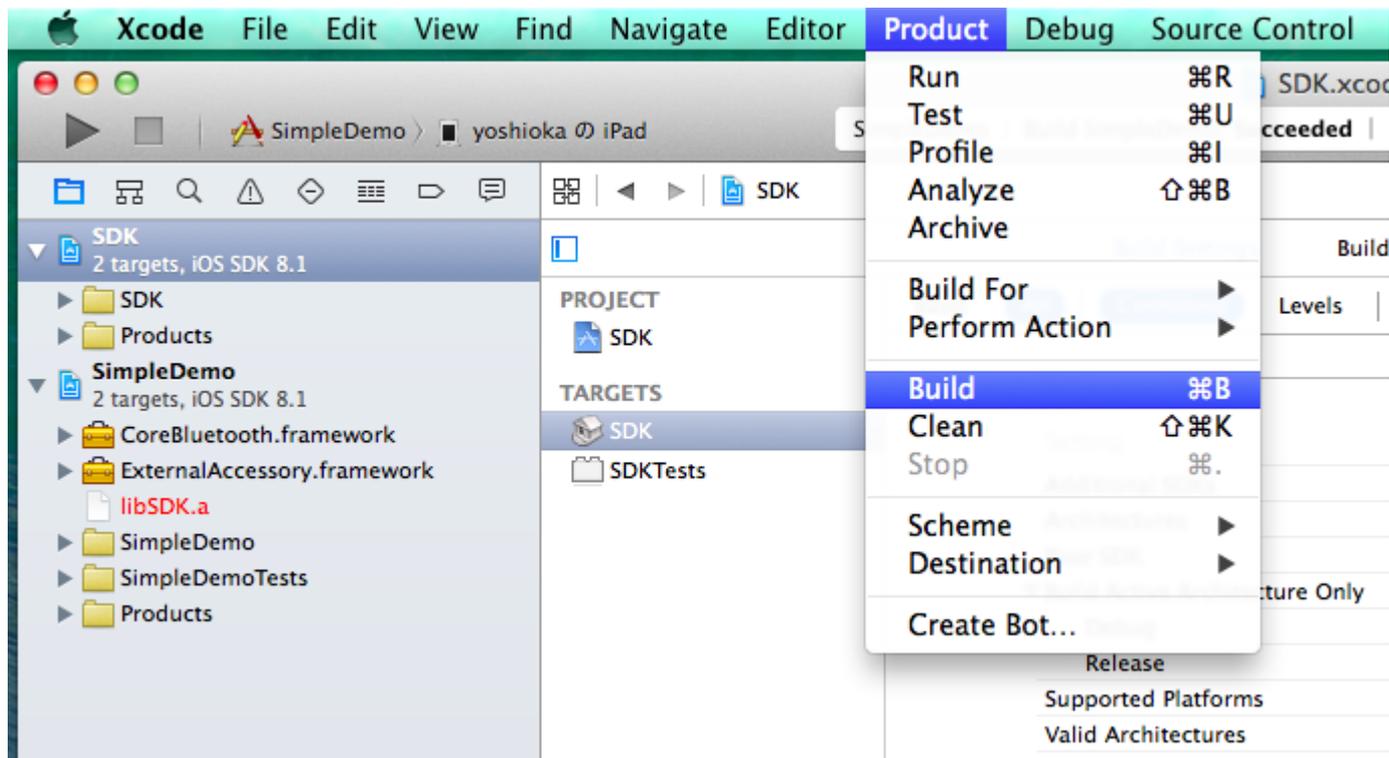
3-3. プロジェクトのビルド

- サンプルプロジェクトのスキームを選択します。



3-4. プロジェクトのビルド

- サンプルプロジェクトをビルドします。



4. iOS端末の接続

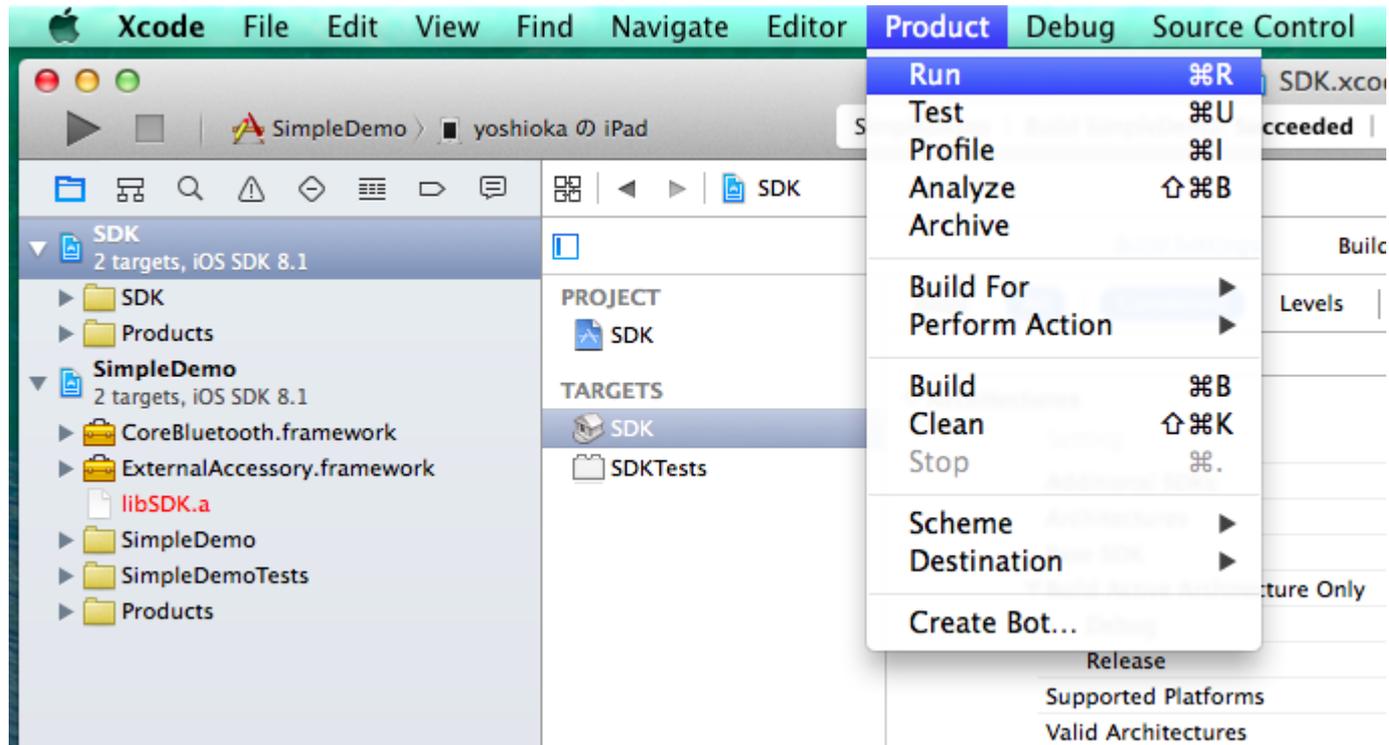
- PCとiOS端末をUSBケーブルで接続します。

5. iOS端末のBluetooth有効化

- HVC-C は通信するために Bluetooth 4.0 (Bluetooth Low Energy) を使用します。そのためアプリを実行する前にiOSデバイスの Bluetooth 機能を有効にします。
- 「設定＞Bluetooth」をONにします。

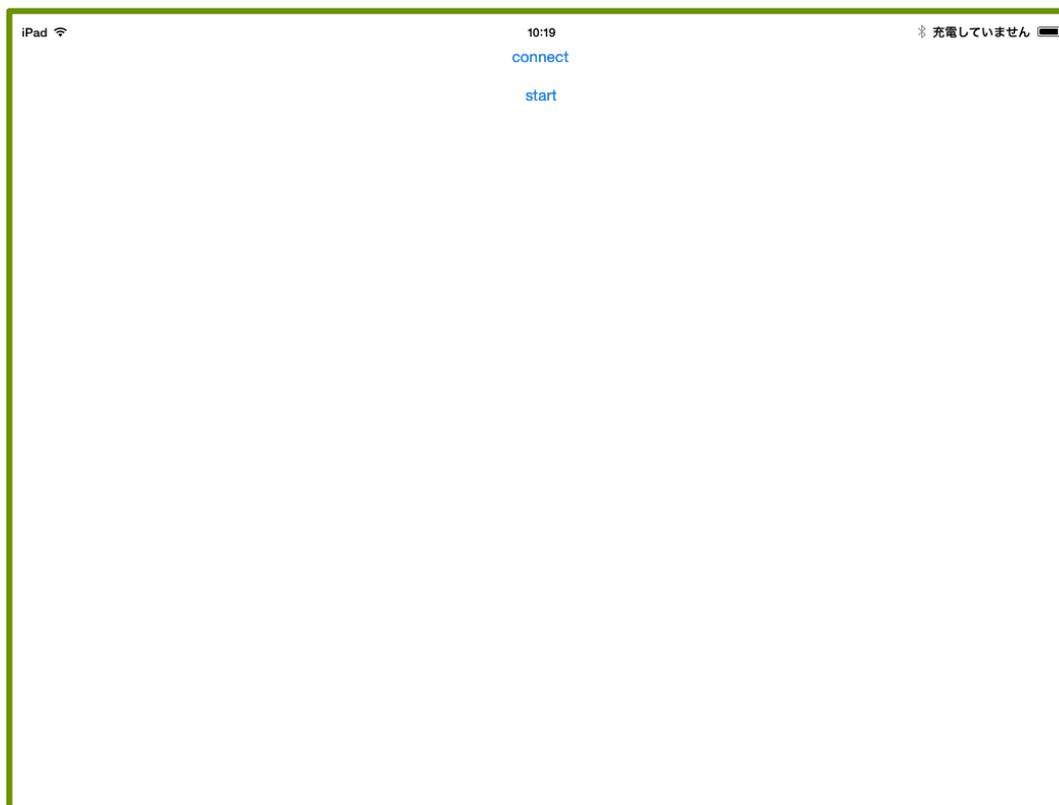
6. HVC-CをiOS端末から動かす

HVC-Cにmicro USBケーブルを接続して電源を供給し、プロジェクトを「Run」してください。



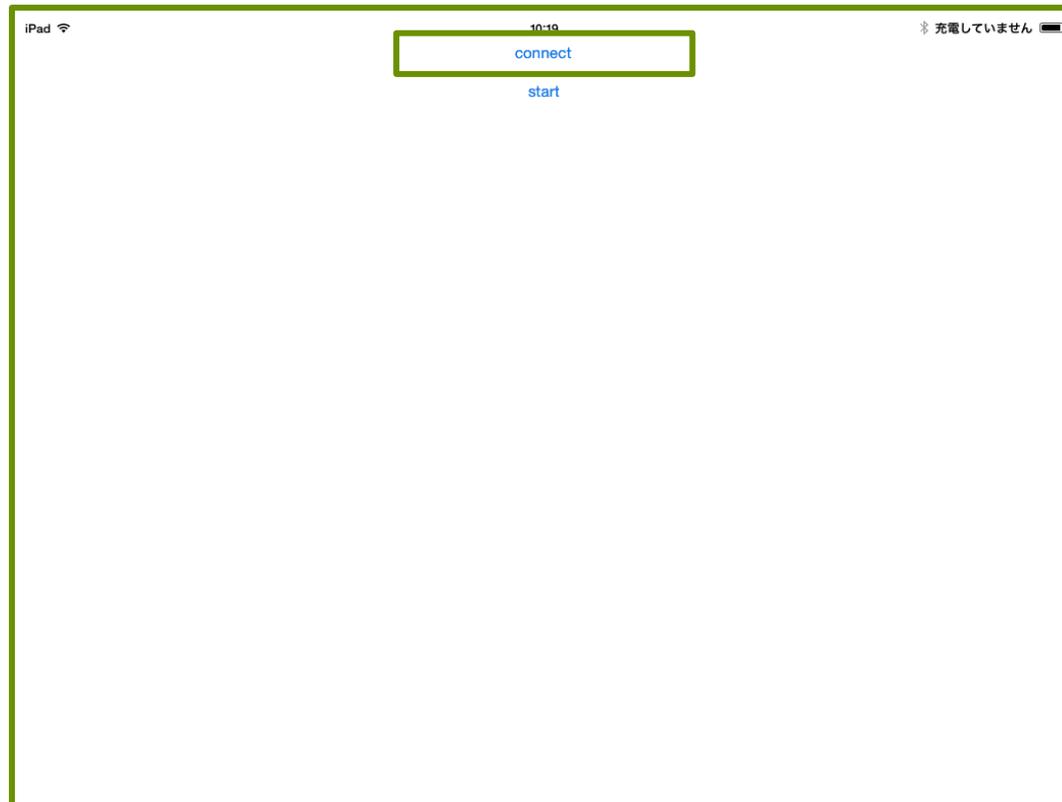
7. アプリ起動の確認

- 下記の画面が表示されていればアプリは正常の動作しています。



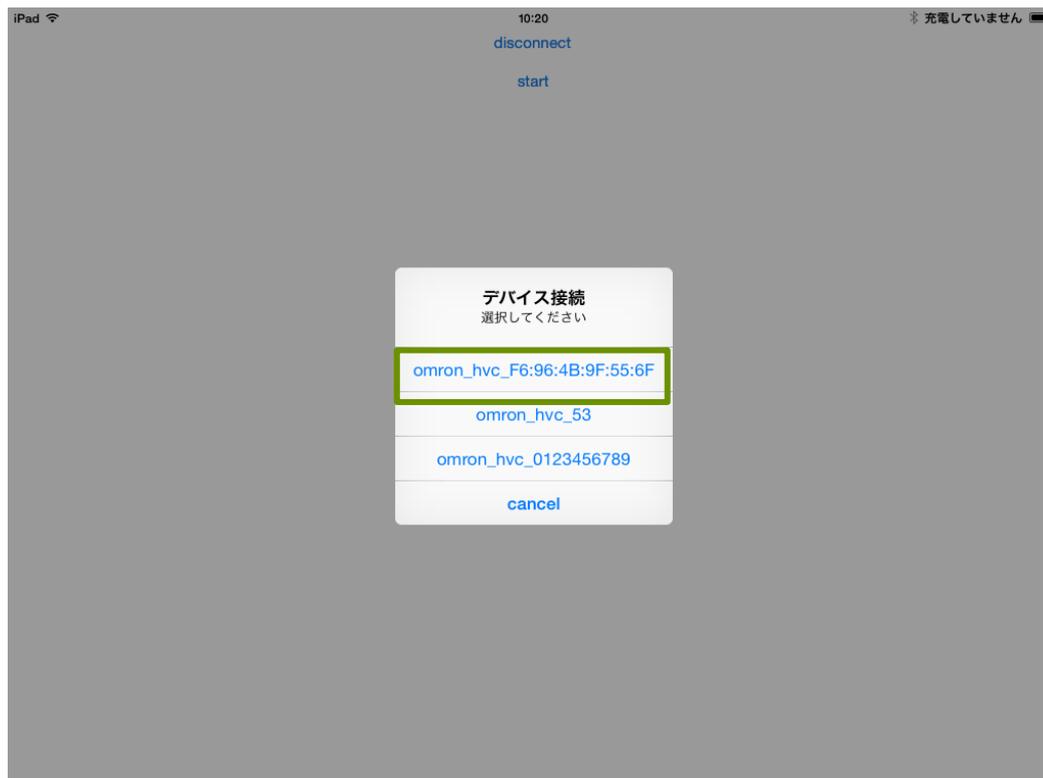
9. BLEデバイスのスキャン

「connect」ボタンをタップして接続可能なBLEデバイスを探します。



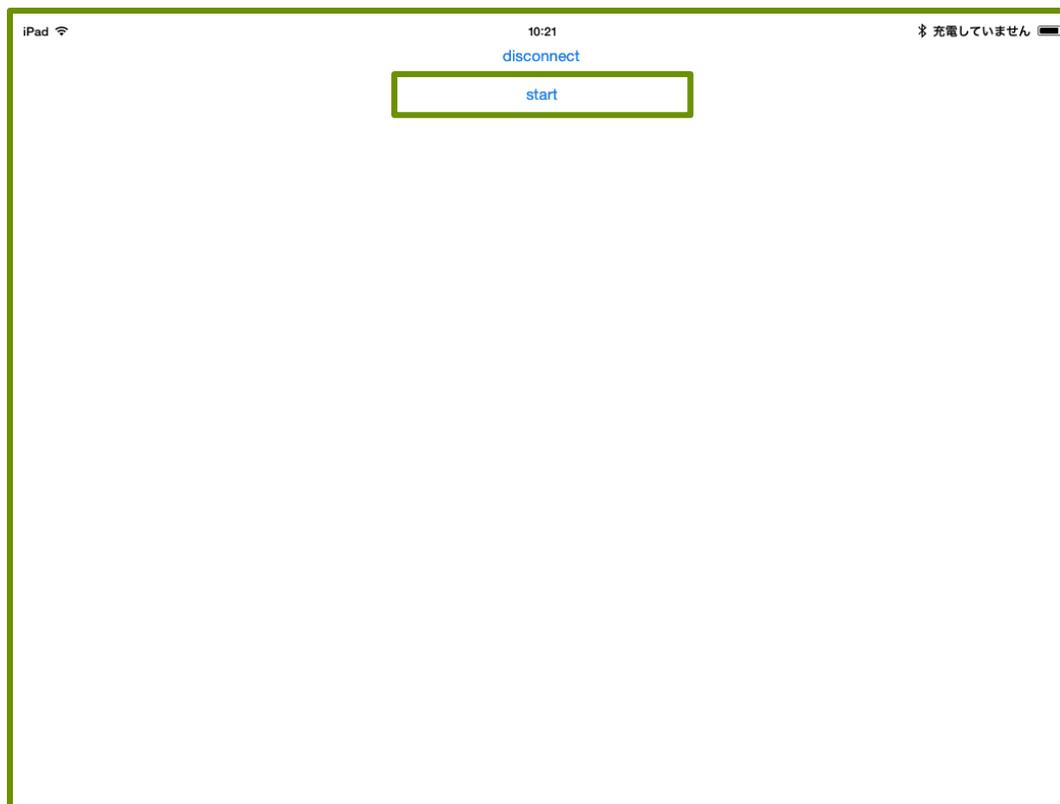
10. 接続するデバイスの選択

- 接続可能なBLEデバイスの一覧が表示されますので、HVC-C（「omron_hvc_xxxx」）を選択します。



11. 検出処理の実行

- 「start」 ボタンをタップすると検出処理が連続実行されます。



11. 検出結果の出力

- 画面上に検出結果が表示されます。
- 「stop」ボタンをタップするまで、検出処理は連続して実行されます。



The screenshot shows an iPad interface with the following elements:

- Top status bar: iPad, 10:22, 充電していません (Not charging).
- Control buttons: "disconnect" and "stop" (both in blue text).
- Detection results (text output):
Body Detect = 1
[Body Detection] : size = 357, x = 263, y = 201, conf = 580
Hand Detect = 1
[Hand Detection] : size = 192, x = 512, y = 208, conf = 612
Face Detect = 1
[Face Detection] : size = 126, x = 261, y = 146, conf = 679
[Face Direction] : yaw = -2, pitch = 7, roll = 1, conf = 927
[Age Estimation] : age = 30, conf = 500
[Gender Estimation] : gender = Male, conf = 527
[Gaze Estimation] : LR = -12, UD = 2
[Blink Estimation] : ratioL = 250, ratioR = 333
[Expression Estimation] : expression = Surprise, score = 50, degree = -57

12. 使ってみよう！

- サンプルデモを実行しながら、まずは1m~1.5m位離れたところからHVC-Cのセンサ部を真っ直ぐ見てみてください。
顔の動きや表情に合わせて、検出座標や表情推定結果が変化するのが確認できると思います。

※本サンプルデモは処理速度が遅く感じるかと思います。本サンプルデモはHVC-Cに搭載されている全機能を実行させているためです。実行する機能を選択することや検出設定の変更により処理速度を速くすることができます。